

## 〈解答〉

- ① 1 自由民権運動  
2 ①：15 ②：25 ③：男子  
3 イ→ア→ウ（完答）  
4 ウ  
5 エ→ア→イ→ウ（完答）  
6 吉田茂  
7 ウ

配点 ①5は2点，他は各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 自由民権運動は、初めは士族が中心だったが、やがて豪農とよばれる有力農民、商工業者、都市の知識人に広がり、各地で運動を進める団体が結成された。
- 2 選挙権を持つ人々は、当時の日本の人口の約1.1%（約45万人）にすぎなかった。選挙の結果、自由民権運動の流れをくむ民党（帝国議会において、立憲自由党、立憲改進黨など政府に反対した野党勢力）の議員が過半数を占めた。
- 3 イは1895年、アは1900年、ウは1902年のできごとである。
- 4 日本が立憲制国家としての体制を整えると、イギリスがロシアの南下政策に対抗するうえからも、日本との交渉に応じ、1894年、陸奥宗光外相のもとで、領事裁判権〔治外法権〕の撤廃に成功した。その後、1911年、小村寿太郎外相のもとで、関税自主権の完全な回復に成功した。
- 5 エは1938年、アは1939年、イは1940年、ウは1941年のできごとである。1937年に始まった日中戦争が長引く中で、政府は、1938年に国家総動員法を定めて、資源と国民を、議会の承認なしで戦争に動員できるようにした。1941年、日本は、日ソ中立条約を結んで北方の安全を確保したうえで、フランス領インドシナ南部に軍を進めた。同年、12月8日、日本軍は、ハワイの真珠湾にあるアメリカ海軍基地を奇襲攻撃するとともに、イギリス領のマレー半島に上陸を開始し、太平洋戦争が始まった。
- 6 サンフランシスコ平和条約が結ばれ、日本は独立国としての主権を回復したが、沖縄と奄美大島、小笠原諸島は、引き続きアメリカに占領されたままであった。また、サンフランシスコ平和条約と同時に、日米安全保障条約が結ばれ、アメリカの軍事基地が日本国内に残されることになった。
- 7 中東地域では、冷戦後も紛争が絶えず、1990年にイラク軍がクウェートへ侵攻すると、翌年、アメリカ軍を主体とする多国籍軍がイラクを攻撃した。これを湾岸戦争という。このとき、日本も人的支援が求められ、湾岸戦争後、日本は国連平和維持活動〔PKO〕などのために、自衛隊を海外へ派遣するようになった。